

# CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月に1回開催しています(P.27参照)。同委員会では3名の社外委員から「社外からの目」で意見をいただき、委員である社内の役員とともに議論を重ねています。2010年度の議論を踏まえた、社外委員からのコメントを紹介します。



シャープ株式会社 相談役  
辻 晴雄

## CSR委員会でのコメントから

「グリーンファースト」をさらに飛躍させるために目標設定とマネジメントを強化していただきたい。「グリーンファースト」が経営戦略の根幹となり、ブランドイメージが一層強固なものになることを期待している。

## 現場主体のCSRで、一層の「進化」と「深化」を

未曾有の大惨事をもたらした東日本大震災と原子力発電所の事故は、被災地の方々の住まいはもとより、生活をも一瞬のうちに奪ってしまいました。この中で改めて「省エネ」と「創エネ」、そして「節電」の重要性が環境問題とは違った形で浮き彫りになりました。積水ハウスは、省エネ・創エネを実現する住宅「グリーンファースト」でいち早く成果を挙げていますが、この技術を基に「エネルギーを消費する住宅から、供給する住宅への転換」をより一層進め、新たな住まいの創造を通して、被災地はもちろん日本の復興に大いに寄与していただきたいと思います。

ところで、わが国で本格的にCSRが叫ばれてから8年が経ちました。果たすべき社会的責任の内容も世の中の動きとともに変わってきており、従来のままの取り組みでマッチしているか見直すとともに、目指すレベルを高めることも必要になっています。特にコンプライアンスの面で言えば、法令も生き物ですので、常に新しいルールに則した規程やマニュアルを整備し、各々の職場で的確に実行することが求められます。こうした認識を全員が共有し、現場主体で積水ハウスのCSRがより一層「進化」と「深化」を続けていくよう期待しています。



甲南大学 特別客員教授  
加護野 忠男

## CSR委員会でのコメントから

コンプライアンスや内部統制は重要だが、これらに縛られ過ぎて事業活動が収縮してしまうと本末転倒である。悪いことをしないのも当然であるが、良いことをしっかり行うという視点を忘れないでほしい。

## 新しいビジネスモデルの創造を

東日本大震災で環境問題への取り組みは一步後退した感がありますが、長期的な課題は消え去ったわけではありません。新たな状況にも対応しつつ積極的に取り組んでいかなければなりません。主力発電設備が大きな被害を受けた首都圏では、今後しばらく電力不足が続きます。発電所の建設が急がれるべきですが、時間がかかると思われます。比較的早く対応できるのが太陽光発電です。太陽光で大量の電力を確保しようとする、これまでになかった新しいビジネスモデルをつくる必要があります。

例えば、太陽光発電設備を買う経済的余裕はあるが、マンションに住んでいるとか、屋根の形状が発電に向いていないとかの理由で設備の設置が難しい家庭と、物理的には設置可能だが、経済的な理由で設備投資ができない家庭をうまく結び付けるモデルが考えられます。一種の金融ビジネスですが、住宅メーカーが積極的に関与できるビジネスです。もともと住宅産業は金融ビジネスと深いかわりを持ってきました。賃貸住宅は、見ようによっては一種の金融ビジネスです。他にもさまざまなビジネスモデルの可能性ががあります。新しい提案が待たれます。



弁護士  
加納 駿亮

## CSR委員会でのコメントから

グローバルな流れにも注目し、政治経済の情勢にも目配りされた細やかな戦略が立案、実践されている。都市部と郊外の地域格差も勘案し、エリアマーケティングを強化された。

## 大震災からの復興に全力の支援を

東日本大震災被災地の目を覆うばかりの惨状は、全世界に強い衝撃を与えました。多数の被災者の方々が、深い悲しみと苦しみに耐えながら、人としての信義・礼節を忘れず社会秩序を維持していることに、海外から驚きと賞賛の声が寄せられ、国際的連帯の輪と温かい支援が広がっています。

また、この地震で発生した福島原発放射能漏れの大事故の対応では、多数の消防職員、警察官、自衛隊員、東京電力関係者等の方々が国民の安全と被害拡大防止のため、身の危険も顧みず献身的な活動を行ったことが、全世界に感銘を与えました。

積水ハウスは、いち早く被災地に水などの支援の手を差し伸べましたが、積水ハウスの本領発揮の場は、これから相当長期間にわたるであろう被災地の住宅の本格復興の支援にあると思います。先の阪神・淡路大震災の際、耐震性に優れた積水ハウスの住宅が安全を守るシェルターの役割を果たしたことは周知の事実です。耐震住宅のノウハウや省エネ・CO<sub>2</sub>削減等先進的技術を生かした、より安全・快適な住宅を供給し、被災地の復興を強力に支援することは、住まいのリーディングカンパニーたる積水ハウスの行うCSR活動の本領発揮の場となることでしょう。

# 第三者意見報告書

積水ハウスは、サステナビリティレポートの説明責任のレベルを高めるために、本年度も、国際NGOナチュラル・ステップ・ジャパンに第三者意見の策定を依頼しました。

積水ハウス株式会社御中

2011年5月

## 第三者意見報告書

国際NGOナチュラル・ステップ・ジャパン

代表 **高見幸子** the NATURAL STEP

ナチュラル・ステップ・ジャパン(以下TNS)は、積水ハウスより「サステナビリティレポート2011」の第三者意見の依頼を受けた。我々は、積水ハウスと独立の立場で、積水ハウスのステークホルダーとは公平な立場でこの分析を行った。我々の責任は、下記記載の手続きの範囲で得た情報と関連した主張を基盤にして、その限られた範囲で分析と評価を実施することである。これは、積水ハウスの経営幹部とステークホルダーの両方にあてた報告書である。

### 分析のために実施した手続き

- ◇ 企業にとって重要なフロー・プロセス、製品とサービスの使用段階のインパクトを見る。また、企業が変革に対して柔軟性があるのか、能力をつけているのか、戦略、ビジョンと方針、目標と成果が繋がっているかなどをTNSの持続可能性分析の手法で分析をした。TNSの持続可能性分析手法について [www.tnsj.org](http://www.tnsj.org) (ナチュラル・ステップ持続可能性分析結果の全報告書はWebに掲載)
- ◇ ISO26000社会的責任規格の原則と中核主題に関するアンケートを実施し、取り組み状況を分析した。
- ◇ サステナビリティレポート2010と2011年度版のドラフトと震災対策の報告書を分析した。

### ISO26000に照らし合わせた分析

ISO26000は、ISOの規格プロジェクトとしては世界最大で、99ヶ国の消費者、政府、産業界、労働組合、NGO、学術研究機関を代表する500人の専門家が5年間かけて議論したプロセスがある。北欧では、企業、NGO、組合などの組織が、ISO14001が導入された時と同じレベルの高い関心を示している。マネージメントシステムに慣れた企業は、ISO26000と照らし合わせ、対応が欠けているところがないかを点検するために使っている。また、この規格によって多くの企業が、社会的責任を新しい事業やサービスの展開を考える際に重要視するようになったことが指摘されている。

今回、積水ハウスの環境とCSRの取り組みをISO26000と照らし合わせ分析してみると、ISO26000の原則と中核主題の対策はすでに取り組んでいることが確認できる。今後、新たに取り組むが必要となるところは、海外事業がスタートしたため「国際行動規範の尊重」の原則の理解を深め、幅広く適用することである。また、中核主題の中で、積水ハウスが自ら持続的な課題であると認識している「労働慣行」の取り組みのレベルを向上させることである。特に、女性活躍のさらなる推進のためにワーク・ライフ・バランスへの取り組みは、最も優先的に取り組まれるべきである。

ISO26000は、また、原則が理解でき、中核主題が特定できれば、組織が社会的責任を組織全体に統合する必要性も強調している。積水ハウスは、企業理念と行動規範、戦略及び業務に社会的責任をしっかりと導入している。この点において、グローバルな模範事例になるだろう。

### 2010年のハイライト

#### 1. 「グリーンファースト」の推進

トップ、幹部から担当者に至るまで全社で取り組み、各種の補助金や余剰電力買取制度の認知を普及させ、研修等により全事業所への販売方法の落とし込みを図るなどして、太陽光発電システムや燃料電池を搭載する「グリーンファースト」の実績を目標以上に伸ばし、業界トップになった。「グリーンファースト」の新築戸建住宅の比率が2007年7%だったのを70.6%まで伸ばしたことは高く評価できる。

また、燃料電池「エネファーム」も業界最多の契約実績となり、普及に大きく寄与している。

#### 2. 「フェアウッド」調達

海外からの木材調達において「フェアウッド」調達が有効に機能し始めている。調達ランクで最も評価の高いSランク木材の調達割合が40%から56%に伸び、最低のCランク木材の調達割合が22%から6%に下がったことは望ましい状況である。

#### 3. 外部とのコミュニケーション

COP10を機会に、企業が本業において生物の多様性に寄与している模範事例として積水ハウスの対策が目された。様々な紙面や講演会で、積水ハウスの取り組み内容を紹介する機会があったことは、Win-Winの大変ポジティブな外部とのコミュニケーションとなったと思う。

#### 4. 戦略思考

東日本大震災は1000年に一度といわれる未曾有の大災害となった。地震と津波によって引き起こされた災害は復興に向けて道筋を示さなければならない。また、原子力発電所の事故においては、国内のみならず全世界の注目を浴びており、ここにきて地球温暖化防止対策における原発必要論に大きな課題が投げられたことになる。

そして、今、全世界規模で、太陽光発電への関心が非常に高まっている。その観点から、積水ハウスが進めてきたサステナブル社会の実現への戦略は、すばらしい戦略だと思う。

今後は益々、「グリーンファースト」の取り組みや、スマート・ネットワーク、スマートハウスの実用化の前倒しに向けて、積極的な取り組みを促進していただきたい。そのことが今まさに日本が直面する危機的状況を打開する道を示すものとしてよい指針となる。

### 今後の課題

積水ハウスが、自社生産過程におけるエネルギーの低炭素化対策を加速させることも重要である。例えば、生産工場の屋根に太陽光発電を設置することも検討してはどうだろうか。

石油に由来するプラスチックにおいても長期的削減戦略とアクションプランを構築し、現在、PDCAで取り組んでいる環境目標の1項目に含めることによって問題が「見える化」し、対策が進むと考える。

### まとめ

「サステナビリティレポート2011」において、積水ハウスは、サステナビリティの責任にコミットメントをしている。そして、ステークホルダーが最も懸念している重要な課題とそれらに対する様々な対応について簡略に説明し意思疎通をしている。

2010年は、太陽光発電システムと燃料電池の販売実績を大幅に伸ばし、積極的に地球温暖化防止対策への社会的責任を果たしながら経済的な発展ができたことを高く評価する。

その他、「エパーループ」の取り組みは、「グリーンファースト」に比べ目立たないが、循環型社会づくりの上で、非常に重要なシステムをつくる取り組みである。引き続き、この新たな住宅流通市場の形成に頑張してほしい。

また、今後、震災復興に向けては、安全・安心な住宅を提供すると共に、「まちづくり憲章」に基づき、東北地方の豊かな伝統と文化の再生に貢献することを期待したい。

# 2010年度 社外からの主な評価

## 環境

### 新梅田シティ「新・里山」における取り組み

主催：環境省  
ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会2010 銅賞 [2010年2月]

### 自然再生と生態系保全を目指す「5本の樹」計画

主催：公益社団法人 日本フィランソロピー協会  
企業フィランソロピー大賞 特別賞：自然共創賞 [2010年2月]

### 「木材調達ガイドライン」による「フェアウッド」調達の推進

主催：日本環境経営大賞表彰委員会、三重県  
日本環境経営大賞 環境価値創造パール大賞 [2010年3月]

### 新梅田シティ「新・里山」

主催：財団法人 都市緑化基金  
生物多様性保全につながる企業のみどり100選  
企業緑地部門 [2010年5月]



### シャーマゼン エコスタイル クロスソーラー

主催：財団法人 日本地域開発センター  
ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2010 特別賞、優秀企業賞  
[2011年1月]

### もてなしの庭(グリーンテクノ積和株式会社)

主催：日比谷公園ガーデニングショー2010実行委員会  
日比谷公園ガーデニングショー2010 ガーデンコンテスト  
東京都知事賞(ガーデン部門) [2010年10月]

## まちなみ・景観

### グランドメゾン四條畷ゲートハウス

大阪サステナブル建築賞 特別賞 [2010年2月]

### 東京ミッドタウン

サステナブル建築賞 財団法人 建築環境・省エネルギー機構理事長賞  
(その他ビル部門) [2010年2月]

### コモンガーデン草加

草加市まちなみ景観賞  
建物景観部門 [2010年2月]



### コモンステージ郡山パークスクエア(第2期建売住宅)

郡山市景観まちづくり賞 [2010年2月]

### グランドメゾン千里山西

いいでしょこのまち賞(まちなみ部門) [2010年2月]

### コモンステージ青山

盛岡市都市景観賞 [2011年1月]

### グランドメゾン西九条BIO

おおさか優良緑化賞 大阪府知事賞 [2010年11月]  
大阪サステナブル建築賞 特別賞 [2011年1月]

## 商品・技術ほか

### 積水ハウスの女性活躍推進の取り組み

主催：名古屋市  
名古屋市女性の活躍推進企業認定 最優秀賞 [2011年1月]

### スマートユニバーサルデザイン



積水ハウスオリジナル  
「スマートユニバーサルデザイン」が  
2010年度「グッドデザイン賞」を受賞。  
※生活領域、住宅設備部門

主催：財団法人 日本産業デザイン振興会  
グッドデザイン賞(生活領域/住宅設備部門) [2010年9月]

### 新宿展示場(五感で実感できるユニバーサルデザインの家)

主催：財団法人 韓国公共デザイン地域支援財団  
International Public Design Award 2009 グランプリ [2010年2月]

## キッズデザイン賞

主催：特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会  
キッズデザイン賞 [2010年7月]



### 「サステナブル デザイン ラボラトリー」

(フューチャープロダクツ部門) 優秀賞

### 「プレイフル・デザイン・スタジオ こどもから学ぶ・おとなが変わる」※

(フューチャーアクション部門) 最優秀賞：経済産業大臣賞

### オリジナルユニットバス「バスコア B C H V」

(キッズセーフティ部門)

### 「SH-UD」(積水ハウスユニバーサルデザイン)による住空間 ベビーカーおよび車いす使用に安全な通路設計の研究

(ユニバーサルセーフティ部門)

### 「5本の樹」いきもの調査

(フューチャーアクション部門)

### MUSIC HOUSE

### 「CO<sub>2</sub>バランスモニタ」の開発

(フューチャープロダクツ部門)

### 積水ハウスマッチングプログラム こども基金

実測に基づく室内干し時における洗濯物の乾燥時間および室内温湿度環境

(ソーシャルキッズサポート部門)

### 共働きファミリーが暮らす家「トモイエ」

(ソーシャルキッズプロダクツ部門)

※キッズデザイン協議会参加自治体・企業による「こどもOS研究会」の共同研究活動として受賞

## CSR全般

### 積水ハウスのCSRへの取り組み

主催：日本内部統制大賞(Integrity Award) 審議会  
日本内部統制大賞2011  
「日本内部統制大賞(Integrity Award)」(「誠実な企業」賞)優秀賞  
[2011年2月]

主催：日本財団  
「日本が誇るべき企業100社」  
CSRレイティング 2年連続1位 [2010年10月]

# 総括・社外意見を受けて

## ■ 社会性に関する分野

このたびの東日本大震災で被災された皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。被災地の復興に全力を尽くすとともに、夏季のピーク電力カットに向けて省電力生活スタイルの啓発・提案を行うなど、住宅メーカーとしての社会的責任をしっかりと果たしてまいります。

企業が果たす社会的責任への期待は日増しに高くなっています。CSR活動について「現状維持は後退」という意識を持ち、活動の質を高めていくことが重要だと考えています。

企業は人なりと言いますが、当社企業理念の根本哲学「人間愛」を具現化できる人材を育成し、社員がいきいきと働ける風通しの良い職場をつくることがCSRの出発点であると思います。2010年度はマネージャーをはじめとした階層別の教育を徹底して実施しました。また、サステナビリティレポートのe-ラーニング、企業倫理月間の取り組み等を通じて従業員のCSR意識の向上に注力しました。

また、創立50周年を機に、積和不動産、積和建設などの関係会社と連携してグループ全体のCSR活動も進展しました。

コンプライアンスに関しては、キーパーソンである各営業本部の総務部長の役割を明確化し、定例会議での情報共有、議論等を通じてガバナンスの強化を図りました。

社会貢献活動に関しては、ボランティアに参加した延べ人数が前年度から約16%アップしたことに見られるように、かなり定着してきたと考えております。従業員の社会貢献意識をはぐくむことは企業理念の実践にもつながりますので、引き続き推進してまいります。

2010年度、当社は日本財団によるCSRレイティングにおいて2年連続「日本が世界に誇るべきCSR先進企業」の第1位にランキングされました。また、日本内部統制大賞審議会主催の「日本内部統制大賞(Integrity Award)」(「誠実な企業」賞)優秀賞も受賞することができました。これらの評価は当社に対する期待であると受け止め、決しておごることなく、常にCSR推進の原点を見据えながら活動を推進してまいります。

## ■ 環境に関する分野

このたびの東日本大震災で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。命を支える住まいの意義をしっかりと受け止め、全社一丸となってオーナー様のサポートと仮設住宅などの復興支援に尽力いたします。

「グリーンファースト」で普及に努めてきた太陽光発電システムの採用は、2010年度、新築戸建住宅の7割を超えましたが、震災後のインフラ不全の中、非常用電源として機能したと多くのオーナー様から感謝のお言葉をいただきました。自立循環型のエネルギーの選択が、防災対策としても極めて有効な手段であることを再認識し、引き続き太陽光発電システムや燃料電池の普及を促進してまいります。実証実験段階に移行したスマートハウス、スマートコミュニティについても、住まい手の快適性を見据えた次世代エネルギーシステムを目指して加速していきます。

また、2010年度は「グリーンファースト」の新たな施策として、健やかな空気環境を実現する「ケミケア仕様」(空気質配慮仕様)の普及を本格化させました。次年度はこれを踏まえて、安全・安心や使いやすさに心地よさを付加した独自の「スマート ユニバーサルデザイン」の推進など、健康に関する取り組みの浸透にも一層注力します。

2010年秋には名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、地域の在来樹種中心の庭づくり「5本の樹」計画、持続可能な木材利用を進める独自の調達指針「木材調達ガイドライン」についても、実績ある先進事例として評価いただくことができました。循環型社会構築に向けても、2010年度に全国導入が完了した「ICタグ」を活用したゼロエミッションシステムの効率的運用を図ります。

これらの環境への取り組みは、国内はもちろん、展開を進める海外事業においても当社の強みとなっています。社会の新たな枠組みの提案が求められている状況の中、住宅事業の可能性を見据え、積極的に展開してまいりたいと考えています。



取締役 兼 専務執行役員  
コーポレート・コミュニケーション部長  
平林 文明



取締役 兼 常務執行役員  
技術本部長  
伊久 哲夫

# WEB掲載項目について

本冊子では、できるかぎり重要性の高い報告に絞り、読みやすいレポートをめざしています。そのため、本冊子に掲載できなかった取り組みや詳細データはWEBでご紹介しています。



<http://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/2011/>



## 積水ハウスグループについて

### ■ グループの概要

### ■ トップコミットメント

### ■ 企業理念・ビジョン

- 企業理念  
サステナブル社会の実現に向けて  
積水ハウスが考える「4つの価値」と「13の指針」
- ・環境価値
  - ・経済価値
  - ・社会価値
  - ・住まい手価値

## ガバナンス・コンプライアンス

### ■ CSRに関する方針・指針

- ・CSRの原点となる「企業理念」
- ・経営ビジョン
- ・「サステナブル・ビジョン」

### ■ CSR推進体制

- ・CSR委員会とCSR推進体制
- ・社外委員からのコメント
- ・事業所におけるCSR推進
- ・CSRマネジメントツール

### ■ コーポレートガバナンス・内部統制システム

### ■ 環境マネジメント

- ・環境マネジメントの推進、方針
- ・事業所での環境推進体制
- ・ISO14001認証取得状況
- ・環境に関する規制の遵守状況
- ・廃棄物処理管理体制
- ・従業員への環境取り組みの研修

### ■ コンプライアンス

- ・コンプライアンスの考え方
- ・「企業倫理要項」の遵守
- ・個人情報保護の取り組み
- ・内部通報システムと公益通報者の保護
- ・コンプライアンス推進活動
- ・公正な取引
- ・各種補助金の適正業務実施と適正運用

### ■ ヒューマンリレーション・人権擁護

- ・ヒューマンリレーション推進体制
- ・ヒューマンリレーション研修
- ・セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント相談窓口

### ■ リスクマネジメント

- ・リスクマネジメント体制
- ・新型インフルエンザの対策について
- ・廃棄物処理と土壌汚染に関するリスクへの対応
- ・自然災害発生時の対応

## 「エコ・ファースト企業」として

- ・「エコ・ファーストの約束」進捗報告
- ・「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加

## これまでのあゆみ

- ・未来につながるアーカイブ「積水ハウス50年史」発行
- ・1960年代
- ・1970年代
- ・1980年代
- ・1990年代
- ・2000年代
- ・2010年代

## 研究・開発

- ・R&Dの拠点「総合住宅研究所」
- ・近未来型住宅「ゼロエミッションハウス」
- ・「サステナブル デザイン ラボラトリー」
- ・「ケミレスタウン®プロジェクト」
- ・千葉工大との共同研究「ロボットテクノロジー (RT)」
- ・サステナビリティ学連携研究機構
- ・MIT (マサチューセッツ工科大学)との共同研究プロジェクト

## 社外からの評価

- ・SRIインデックスへの組み入れについて
- ・主な表彰実績

## グリーンファースト

- 「サステナブル・ビジョン」を具現化する「グリーンファースト」
- 「サステナブル社会の実現」に向けた未来への取り組み
- ・スマートハウス実用化への取り組み
- ・「ケミレスタウン®・プロジェクト」
- ・海外事業の展開

## CSR実践報告

- ・地球温暖化の防止
- ・生物多様性の保全
- ・循環型の社会づくり
- ・ふれあいと「経年美化」のまちづくり
- ・積水ハウスの住まいづくり
- ・グループ会社・協力工事店とともに
- ・従業員とともに
- ・社会貢献活動

## テーマ別取り組み

### ■ 地球温暖化防止

- 公的制度や認定の活用
  - ・環境共生住宅
  - ・CASBEE (建築物総合環境性能評価システム)
  - ・建売住宅のトップランナー基準
- 住宅のエネルギー消費 (住宅のライフサイクルアセスメント (LCA))
- 生産時のCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み
  - ・生産時のエネルギー消費
  - ・木質バイオマス・ガス化発電システムの導入
- 輸送時のCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み
  - ・輸送時のエネルギー消費
  - ・モーダルシフトの取り組み
  - ・積載効率の高い「増トン車」の導入
- 居住時のCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み
  - ・次世代断熱仕様の標準化
  - ・「アクションプラン20」から「グリーンファースト」へ
  - ・太陽光発電システムの普及促進
  - ・高効率給湯器の普及促進
  - ・燃料電池の普及促進
  - ・創エネ・省エネリフォーム
  - ・分譲マンションも「グリーンファースト」
  - ・「グリーンファースト LED-かながわ」の発売
- 事務所で取り組むCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み
  - ・事務所での省エネ推進活動

## ■ 生物多様性

### ● 原材料調達時の配慮

- ・「木材調達ガイドライン」の運用
- ・熱帯材材利用の廃止
- ・木材の循環利用を推進
- ・「第8回日本環境経営大賞」にて「環境価値創造パール大賞」受賞

### ● 生態系保全の取り組み

- ・「企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)」と「ビジネスと生物多様性イニシアティブ (B&B)」への参加
- ・住まいの緑化を提案
- ・「5本の樹」計画の推進
- ・「シャーマンズ ガーデンス」の取り組み
- ・分譲マンションにおける緑化の推進
- ・都市開発における環境配慮
- ・生物多様性サイトの開設
- ・「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」
- ・庭木再生利用の取り組み

## ■ 資源循環

### ● 住まいの価値を維持する長期保証

- 住まいの長寿命化を促進する新技術
  - ・長期優良住宅と品確法
  - ・長期優良住宅先導事業に採択

### ● 循環型社会の形成につながるリフォーム事業

### ● 「E-パループ」～オーナー住宅買取再生事業

### ● 資源の循環利用

- ・資源循環活動のあゆみ
- ・住宅に使用する資源の循環利用促進

### ● グループ全体で取り組むゼロエミッション

- ・「資源循環センター」
- ・「広域認定制度」を活用したリサイクルの推進
- ・「ICタグ」を利用した次世代ゼロエミッション
- ・「ぐるっとメール」の運用による廃棄物の管理

### ● 工場

- ・工場ゼロエミッションの取り組み
- ・プレカットによる廃棄物削減
- ・工場におけるリサイクルの推進
- ・「プラタマパウダー」の開発、販売
- ・工場における水使用量

### ● 新築施工現場

- ・新築施工現場でのゼロエミッション
- ・新築施工現場のリデュース
- ・リターナブル梱包の導入

### ● アフターメンテナンス部門でのゼロエミッション

### ● リフォーム施工現場でのゼロエミッション

### ● 解体廃棄物の再資源化への取り組み

### ● 居住時の資源有効利用

- ・雨水利用の推進
- ・節水型浴槽・手元ストップシャワーの導入を推進
- ・超節水型便器の標準化

### ● 事務所における取り組み

- ・「グリーン購入」の推進
- ・紙資源使用量削減
- ・施工現場ユニフォームのリサイクル
- ・エコ車両の導入とエコ安全ドライブの推進

## ■ 化学物質の管理

- ・「化学物質ガイドライン」の運用と管理
- ・アスベスト問題への対応
- ・解体時の適正なフロン回収
- ・PRTR—工場で使用する化学物質の管理

## ■ まちづくりとコミュニティ

- ・「まちづくり憲章」
- ・分譲住宅フェア「まちなみ参観日」
- ・「経年美化」のまちづくり
- ・「ひとえん」によるコミュニティの醸成
- ・「n×豊か」のまちづくり
- ・賃貸住宅のまちづくり
- ・マンション・都市開発の実例

## ■ 安全・安心・快適

### ● 安全

- ・「住宅防災」への取り組み
- ・防災への配慮
- ・ユニバーサルデザインから「スマート ユニバーサルデザイン」へ
- ・「ケミケア仕様」の普及
- ・健康への配慮

### ● 安心

#### 部材生産品質向上のために

#### 施工品質向上のために

- ・全社施工品質管理システム
- ・不具合の予防・再発防止体制構築と苦情情報のデータベース化による品質改善
- ・グループ会社と協力工事店による任意組織「積水ハウス会」
- ・厚生労働省認定「セキスイハウス主任技能者検定」
- ・教育訓練センター・訓練校
- ・施工マスター制度
- ・積水ハウスリフォームマスター制度
- ・施工改善提案制度「私のアイデアー21」
- ・施工ニュース「つちおと」

#### コンサルティング・ハウジング

- ・「コンサルティング・ハウジング」の推進
- ・体験型学習施設を通じた「コンサルティング・ハウジング」
- ・「コンサルティング・ハウジング」を補完するシステム
- ・環境シミュレーションツール
- ・補助金制度・長期優良住宅対応のシミュレーションプログラム
- ・「コンサルティング・ハウジング」を担う人材の育成

#### アフターサービス

- ・カスタマーズセンター
- ・カスタマーズセンター休日受付センター
- ・長期品質保証制度
- ・住宅履歴情報サービス

### ● 快適

- ・さまざまな家族のカタチにあわせたライフスタイル提案
  - ・オーナー様・入居者双方にメリットのある賃貸住宅の提案
- #### 超高齢社会に向けたさまざまな提案
- ・熟年・高齢期の住まい方の提案
  - ・医療・介護事業の推進
  - ・シニアの移住を支援する制度

## ■ ステークホルダーコミュニケーション

### ● ステークホルダーコミュニケーション指針

#### ● お客様とのコミュニケーション

- ・CS(お客様満足)に関する方針と体制
- ・グループ全員で実践するCSアクション
- ・お客様アンケートの分析とフィードバック
- ・オーナー様とのコミュニケーションツール
- ・賃貸住宅における入居者満足の向上

#### ● 取引先とのコミュニケーション

- ・購買方針
- ・方針説明会の開催
- ・お取引先様の企業体質改善サポート
- ・取引先評価の実施
- ・セキスイハウス会労働保険事務組合
- ・セキスイハウス協力会
- ・施工従事者データベースの活用

#### ● 従業員とのコミュニケーション

- ・経営トップと従業員・協力工事店との対話
- ・職場環境改善やCSR推進を目的とした従業員参加型の様々な活動
- ・積水ハウスグループ誌「積水ハウス」
- ・月刊メールマガジン「CSRコラム」

#### ● 株主とのコミュニケーション

#### ● 社会とのコミュニケーション

- ・ステークホルダーとの対話
- ・「サステナビリティレポート」の発行
- ・団体活動および提言活動
- ・環境イベントの開催
- ・サステナブルブックレットの発行

## ■ ひと

### ● 人材サステナビリティ

- ・人事基本方針
- ・子育てと仕事との両立を支援

### ● 女性活躍の推進

- ・女性の管理職への登用
- ・女性営業職の積極採用、支援
- ・展示場接客担当者へ向けた取り組み
- ・「リフォームアドバイザー」の積極採用

### ● ワーク・ライフ・バランスのための制度

- ・育児休業制度や介護休業制度などの利用状況
- ・積立年休、退職者復職登録、職場復帰支援、ボランティア休職制度

### ● 障がい者雇用の推進

#### ● 人材育成

- ・人材育成の考え方
- ・新卒採用に向けた取り組み
- ・経営力強化に向けた取り組み
- ・人材マネジメント説明会
- ・社内研修制度、自己啓発の支援
- ・社内資格制度
- ・社内公募制度

#### ● 労働安全衛生

- ・メンタルヘルスマネジメント
- ・労働災害発生状況
- ・労働安全衛生マネジメントシステム
- ・施工現場での労働安全衛生確保
- ・職場での労働環境の改善
- ・施工現場の安全衛生活動
- ・安全衛生教育研修

## ■ 社会貢献活動

### ● 社会貢献活動の考え方・指針

#### ● 住文化の向上

- ・住まいづくりの教室「すまい塾」の開催
- ・「生活リテラシーブック」の発行
- ・調査・研究データの発信「view point」の発行
- ・住まいの図書館
- ・出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」
- ・「住み継がれる家の価値」冊子発行への協力

#### ● 次世代育成

- ・総合住宅研究所の教育貢献活動
- ・体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」
- ・各地の教育貢献
- ・インターンシップの実施
- ・「地球にやさしい住生活デザインコンペ」の開催
- ・環境教育プログラムの実施

#### ● 環境配慮

- ・新梅田シティ「新・里山」での教育貢献
- ・「企業の森」制度への参加
- ・清掃活動
- ・「100万人のキャンドルナイト」への参加
- ・「5本の樹」計画を生かした地域貢献活動
- ・埼玉県「みどり」と川の再生」活動に参加

#### ● 社会への啓発活動

- ・防災意識の啓発
- ・災害時における地域との協働
- ・防犯教育と意識啓発

#### ● 障がい者の自立支援

- ・セーブ製品の販売協力、ノベルティ採用
- ・障害者週間行事への参加

### ● NPO・NGOとの協働

- ・NPO・NGOとの協働
- ・社会起業家をめざす若者の支援「edge」への協賛
- ・NPO「西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」への協力

### ● 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

### ● 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

### ● チャリティ・義援金・ボランティア

- ・災害義援金
- ・チャリティフリーマーケットの実施
- ・こどもの日チャリティイベントへの協力
- ・各地へ広がる収集ボランティア
- ・地域イベントの支援
- ・多彩な国際交流イベントの開催

### ● 社会貢献活動社長表彰

## 目標と実績

### ■ 社会性目標と実績

- ・CSR方針と体制
- ・お客様のために
- ・従業員、取引先のために
- ・株主、地域社会のために

### ■ 環境目標と実績

- ・約束1(生活時・生産時のCO<sub>2</sub>排出量削減)
- ・約束2(生態系ネットワークの復活)
- ・約束3(資源循環の取り組み)
- ・その他

## 基本事項

### ■ 環境会計

### ■ サイトレポート

- ・東北工場
- ・関東工場
- ・静岡工場
- ・兵庫工場
- ・山口工場

### ■ マテリアルバランス(事業活動の環境負荷の把握)

### ■ ガイドライン対照表

- ・GRIガイドライン
- ・環境省ガイドライン

### ■ 第三者意見報告書

- ・第三者意見報告書
- ・持続可能性分析の結果

### ■ 社外意見を受けて

### ■ 報告書/WEBサイトの編集方針

### ■ 報告書ダウンロード

## 編集後記

3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

住宅メーカーとして被災地の復興に向け、どのように社会的責任を果たしていったかを掲載すべきとの結論に至り、サステナビリティレポートの発行時期を遅らせることといたしました。巻頭に積水ハウスグループの初動から復興住宅建築開始までの活動をまとめておりますので、ご一読いただければ幸いです。

「サステナビリティレポート2011」では、1年間のCSR活動を要素ごとに報告するとともに「積水ハウスの住まいづくり」という項目を設け、生活者視点の住まいづくりをプロセスに沿ってご紹介しました。私たちが創立以来50年間大事にし続けたお客様満足の実現に向けた取り組みをぜひご覧ください。

私たちが編集スタッフはレポート内容の社内外への浸透を目指し、行動してまいります。最後になりましたが、発刊にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



「サステナビリティレポート2011」編集チーム  
コーポレート・コミュニケーション部CSR室、  
環境推進部、IT業務部

## for the next stage

人に、街に、環境に。積水ハウス

## 積水ハウス株式会社

本 社 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号  
梅田スカイビル タワーイースト

東京支社 〒107-0052 東京都港区赤坂4丁目15番1号  
赤坂ガーデンシティ

お問い合わせ先：コーポレート・コミュニケーション部  
CSR室 TEL.06-6440-3440

環境推進部 TEL.06-6440-3374

ホームページ： <http://www.sekisuihouse.co.jp/>



積水ハウスは環境省認定  
「エコ・ファースト企業」として  
「チャレンジ25」に取り組んでいます



リサイクルに適したホットメルト接着剤(難細裂化製本用HMA)を使用しています。

発行:2011年6月